

## 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）

## 留学結果報告書

令和 7 年 7 月 20 日

山梨県知事 殿

本人氏名

加藤 瑞衣

次のとおり留学の成果を報告します。

留学先国名	ニュージーランド
学校等名	Te Puke High school
留学期間	令和 7 年 1 月 26 日 ~ 令和 7 年 6 月 28 日

2025年の初めから半年間、私はニュージーランドのTe PukeにあるTe Puke High Schoolで留学生活を送りました。

海外での長期生活は初めてで、最初は不安もありましたが、現地のホストファミリーや先生、友人たちに温かく迎えてもらい、新しい生活にもすぐに馴染むことができました。Te Pukeは自然が豊かで、キウイフルーツの産地として有名な町です。牛や羊がのんびりと過ごす牧場が広がり、のどかで落ち着いた雰囲気の中で毎日を過ごしました。学校には日本のかた、ドイツ、イタリア、イスラエル、タイ、フランスなどさまざまな国からの留学生が集まっており、現地の学生の中にもインドやインドネシア、フィリピン、パシフィカ出身の生徒がおり、毎日新しい発見の連続でした。

この留学を通して、私は「教育とは何か」ということについて深く考えるようになりました。ニュージーランドの高校教育は、日本のように決められた教科を一律に学ぶのではなく、生徒自身が自分の興味や進路に合わせて教科を選ぶことができます。私は音楽、アウトドア教育、などを選び、実際に手を動かしたり体験したりしながら学ぶ授業を通して、「知識」だけでなく「考え方」や「生き方」を学んでいるように感じました。

また、教育について考える中で、ニュージーランドのワイカト大学（University of Waikato）を訪れる機会がありました。キャンパスでは、実際に学んでいる大学生から話を聞いたり、教育学部の様子を見学したりしました。多様な文化背景を持つ学生たちが意見を交わし合いながら学んでいる姿に強い感銘を受け、「教育とは一方向に教えるものではなく、共に考え、学び合うプロセスなのだ」と感じました。

本来であれば、現地の小学校や中学校にも訪問する予定でしたが、都合により実現しませんでした。しかし、その代わりに、他国から来た友人たちにインタビューを行い、それぞれの国の教育制度について話を聞くことができました。ドイツの職業教育制度、ス

イスの多言語教育、イタリアの芸術に関する授業など、多様な教育の形を知る中で、日本の教育の良さや課題にも気づくことができました。世界の教育の現状を知り、将来は発展途上国への教育の質向上に貢献したいという自分の目標に向けて、大きな一歩を踏み出せたように思います。

また、英語という言語についても、新たな発見を得ることができました。

日本では「英語=試験科目」「資格のための勉強」と捉えられがちですが、実際に現地で暮らし、友人と関わる中で、英語は「相手とつながるための道具」であると強く実感しました。初めはなかなか英語を使って話すことを恐れてしまうこともありました。しかし、日々ホストファミリーや友人と生活していくうちに言葉の間違いを恐れず、自分の思いや考えを伝えようとすることがだんだんとできるようになり、英語はただの科目ではなく「自分の世界を広げるためのツール」なのだと改めて気づきました。

多くの国の友人と出会い、価値観や文化、考え方の違いに触れる中で、「正解は一つではない」ということを日々の中で感じました。そして、異なる意見や背景を持つ人と対話し、理解し合おうとすることこそが、これからの中の国際社会において求められる力だと思います。英語を使いながら、互いの考えをぶつけ合い、時には誤解しながらも歩み寄つていく経験は、教科書では得られない、かけがえのない学びでした。

半年という限られた期間でしたが、この留学で得た経験は、今後の進路や人生を考えるうえで大きな財産となりました。支えてくれた家族、学校の先生方、ホストファミリー、そして友人たちへの感謝を忘れず、これからも学び続けていきたいと思います。



